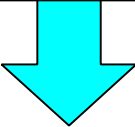


学校教育目標
○考える子ども ○思いやりのある子ども ○たくましい子ども

令和5年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）
○学習指導要領の趣旨を十分に生かした教育活動の実施、授業改善に取り組む。 ○個別最適な学習、協働的な学習の実現へ向けて全校でICT教育を推進する。 ○特別支援教育を充実させ、集団の場面で必要な指導や援助、個別に対応した指導を行う。

指導の重点（各教科）
○基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。 ○指導と評価の一体化を図る。 ○話し合い、記録、まとめ、ふりかえりなど、言語活動を充実させる。 ○学年に応じた学習規律の徹底を図る。 ○既習の内容を生かした導入や発展的な学習を展開する。 ○課題解決型の授業を展開する。 ○体験的な活動や調べ活動を充実させる。 ○ICT機器を積極的に活用する。 ○学校図書館を計画的に活用する。

指導の重点（総合的な学習の時間）
○指導と評価の観点を明確にする。 ○各教科との関連を図る。 ○外部の人材を積極的に活用する。 ○体験活動を充実させる。 ○自然や社会と自らすすんで関わり合う中で、自分にあった課題をもち、主体的に追究し、自分なりの方法で考えを伝えることができるようにする。



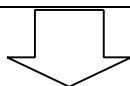
授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
○一人1台端末の積極的な活用 ○体験的な活動や既習事項を活用する活動の充実 ○算数科を中心とした任短教員による学習支援と補充教室の実施	○調べ活動の充実 ○一人1台端末の積極的な活用 ○他教科との関連を図った学習計画	○単元や一単位時間のねらいの明示 ○机間指導・即時評価の充実 ○児童のつまづきに応じた支援や個別の課題提示
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
○一人1台端末の積極的な活用 ○自分の思いや考えをもち表現する時間の確保 ○話し合ったり協働して作品を作ったりする活動の充実	○ICT機器を活用した視覚化・共有化・焦点化 ○特別支援教室（谷戸っこルーム）との連携 ○学習規律の明確化と徹底	○家庭学習と授業の連動 ○生活科・社会科を中心とした、地域の教材化 ○一人1台端末の効果的な活用

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科における指導の重点	
○指導と評価の一体化を図る。	○基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
○課題解決型の授業を展開する。	○学校図書館を計画的に活用する。

現状分析
区学力調査の結果分析
○学年が上がるにつれて、達成率が低くなる傾向がある。 ○4～6年の知識・技能の達成率が比較的低い。正答率を見ると、「言葉の使い方や特徴に関する事項」に課題があることが分かる。
教科指導上の課題
○児童一人ひとりが自分の思いや考えをもち、それを表現できるような指導をする必要がある。 ○児童相互の関わり合いの中で、児童の考えが広がり、深まるような指導をする必要がある。 ○基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、学習が苦手な児童をフォローアップする指導の必要がある。



授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○授業の流れをパターン化するとともに、単元のゴールや毎時間のめあてを明示し、児童が学習の見通しをもてるようにする。 ○ワークシートを工夫する。 (吹き出し、挿絵、情報量、授業の流れが分かる) 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○話し合い活動を積極的に行うとともに、学習の成果を保護者や地域の人に発表する機会を設ける。 ○ペアやグループでの活動では、目的を明確にするとともに、組み合わせを意図的に行う。	【知識・技能を定着させるために】 ○漢字テストや文法の確認を繰り返す行う。 ○デジタルドリルを活用し、習熟度に応じた課題に取り組ませる。 ○書く活動では、ポイントを明示し、児童が自分で推敲できるようにする。 ○読む活動では、指導事項を確実に指導し、大事なことを意識しながら読むように指導する。 ○話すこと・聞くことの学習で学んだことを他教科や学級活動で一層活用していく。
3・4年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○ねらいをもち、ノートとワークシートを使い分ける。 ○単元のゴールを魅力的なものにして、児童が「やってみよう」と思えるようにする。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○一人1台端末を活用して、話し合い活動や、記録、文章によるまとめなどの言語活動を充実させる。 ○交流活動では、ノートを見せ合うのではなく、ノートをもとに話したりメモをとったりするよう指導する。	【知識・技能を定着させるために】 ○漢字テストを繰り返す行うなど、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。 ○デジタルドリルを活用し、習熟度に応じた課題に取り組ませる。

5・6年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○毎時間、児童が一人で課題に取り組んだり、自分の考えをノートに書いたりする活動を確保する。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○コラボノートやSKYメニューを活用し、児童の考えの違いや共通点が見える化する。 ○教師がコーディネーターとなり、児童同士が活発に話し合えるようにする。	【知識・技能を定着させるために】 ○指導事項と評価規準を明確にし、児童の発言や作品を価値付ける声かけを積極的に行う。 ○デジタルドリルを活用し、習熟度に応じた課題に取り組ませる。
-------	---	--

(2) 社会科

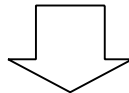
社会科における指導の重点

- 生活経験や既習事項を生かした導入を行う。
- 課題解決型の授業を展開する。
- 体験的な活動や調べ活動を充実させる。
- ICT機器を積極的に活用する。

現状分析

教科指導上の課題

- 児童一人ひとりが自分の思いや考えをもち、それを表現できるような指導をする必要がある。
- 児童相互の関わり合いの中で、児童の考えが広がり、深まるような指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○一人1台端末を活用した調べ方やまとめ方を指導し、自分で学習を進められるようにするとともに、調べるための資料やまとめ方を児童が選べるようにする。 ○単元や毎時の学習課題を明示し、児童が目的意識をもって学習に取り組めるようにする。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○効果的な話し合いの仕方を繰り返し指導する。 ○話し合いをした後に、児童が一人で考えをまとめ発表する場を設ける	【知識・技能を定着させるために】 ○重要な語句の意味を明確にするとともに、その語句を使って、まとめの文章を書く活動を充実させる。 ○実物に触れる活動や、見学・インタビュー活動を充実させ、実感を伴った理解ができるようにする。
5・6年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○スライド教材を使い、児童が考えることを焦点化・視覚化する。 ○「AとBどちらを選ぶ？」という課題を提示することで、どの子も自分の意見をもてるようにする。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○多様な考えが出るように発問を工夫するとともに、ICTを活用して考えを見える化する。 ○複数の資料を提示し、比較・関連付けて課題を解決できるようにする。	【知識・技能を定着させるために】 ○デジタルドリルを活用し、習熟度に応じた課題に取り組ませる。 ○考えたことを文章でまとめたり、資料などを用いて説明したりする活動を積極的に取り入れる。

(3) 算数科

算数科における指導の重点

- 指導と評価の一体化を図る。
- 課題解決型の授業を展開する。
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- ICT機器を積極的に活用する。

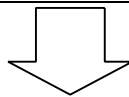
現状分析

区学力調査の結果分析

- 学年が上がるにつれて、達成率が低くなる傾向がある。
- 5年生が他の学年に比べ、主体的に学習に取り組む態度やデータの活用面に課題がある。

教科指導上の課題

- 指導する教員間の、1年から6年への縦のつながりを意識した指導法の共通理解が必要である。
- 主体的かつ協働的に学習に取り組ませるために、児童相互が関わり合い、そのことによって考えが広がったり深まったりする体験ができる授業を組み立てていく必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○具体物を使う活動を重視する。 ○問題文の内容から必要な必要な情報を抜き出せるように指導する。 ○考えをもち、表現する活動をより充実させる。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○誤答を生かして、協働的に正答に結び付けたり、考えの比較・検討を充実させたりする。 ○朝学習等を活用して個に応じた指導を充実させる。	【知識・技能を定着させるために】 ○デジタル教科書や実物の活用、算数的活動をより充実させる。体験や視覚に訴える活動を数多く取り入れることで実感を伴った学習をし、児童の知識・技能を高める。 ○デジタルドリルを活用する。必要に応じて前学年の内容を復習して基礎的・基本的な内容を定着させる。
3・4年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○既習内容を振り返り、解決の手順を児童に考えさせるとともに、自力解決する時間を確保する。 ○任期付短時間勤務教員や支援員との連携を充実させ、児童のつまずきに応じた支援を行う。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○ICT機器を活用したペアやグループ学習を行い、互いに自分の考えを伝え合う時間を設ける。	【知識・技能を定着させるために】 ○具体物の操作を用いて問題を解決することで、自分の考えを広げ、量感を豊かにする。 ○デジタルドリルを活用し、習熟度に応じた課題に取り組ませる。

5・6年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○既習内容を提示し、解決の手順を児童に考えさせるとともに、自力解決する時間を確保する。 ○任期付短時間勤務教員や支援員との連携を充実させ、児童のつまずきに応じた支援を行う。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○一人1台端末を活用しながら、互いの意見を比較・関連させながら考えを深められるようにする。 ○数直線や線分図、グラフ、式などを使って、自らの考えを説明する活動を積極的に行う。	【知識・技能を定着させるために】 ○ベーシックドリルの自己分析表（本校独自）を活用させ、児童が自分の得意不得意を把握し、デジタルドリルで自主的に学習できるようにする。
--------------	--	---

(4)理科

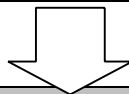
理科における指導の重点

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。 ○問題解決型の授業を展開する。
- 問題作りから解決に至るまでの基本的な思考プロセスを身に付けさせる。

現状分析

教科指導上の課題

- 児童一人ひとりが自分の思いや考えをもち、それを表現できるような指導をする必要がある。
- 児童相互の関わり合いの中で、児童の考えが広がり、深まるような指導をする必要がある。



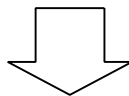
授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○具体物の提示や体験活動をより充実させる。 ○生活の中で出会った事象を基に、児童が問いをもち、自分の考えをもてるようにする。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○班やグループで行い、話し合う時間を設けるとともに、一人ひとりに考えをまとめ表現させる。	【知識・技能を定着させるために】 ○動画教材を活用し、実験の復習や、その単元の活用について学べるようにする。 ○デジタルドリルを活用し、習熟度に応じた課題に取り組ませる。 ○全員が実験に関われるようにし、器具の取扱いについて習得させる。
5・6年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○児童が身近さや驚きを感じられるように事象提示を行う。 ○既習事項や生活経験を基に仮説を立てさせる。 ○実験方法を自ら考えたり、結果から考察したりする活動をより充実させる。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○コラボノートEXを活用し、児童同士の考えの差異点を可視化する。 ○話し合いの形態をペアやグループなど課題に応じて工夫し、一人ひとりの考えが多くの児童と共有できるようにする。	【知識・技能を定着させるために】 ○実験道具を充実させ、実験や観察は全員が参加することを原則し、実感を伴った理解を促す。 ○デジタルドリルを活用し、習熟度に応じた課題に取り組ませる。 ○ICTを活用し、動画や画像などを主体的に検索して、理解できるようにする。

(5) 生活科

生活科における指導の重点	
○課題解決的な学習を行う。	○地域と連携した体験的な学習を行う。
○1年生と保育園児、幼稚園児との交流を生活科に位置付け、自らの成長を振り返るとともに、自立の心を育てる。	

現状分析
教科指導上の課題
○児童一人ひとりが自分の思いや考えをもち、それを表現できるような指導をする必要がある。 ○児童相互の関わり合いの中で、児童の考えが広がり、深まるような指導をする必要がある。 ○地域の特性上、自然に関わる単元の指導に課題があり、工夫して学習活動を計画、実施する必要がある。

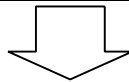


授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○児童のこれまでの経験や体験を生かし、児童の思いや考えををたくさん引き出せるようにする。 ○既存の学習活動を見直し、個別最適な学びや協働的な学びにつながるような学習活動を行う。 (例) 1年生との学校探検、町探検、井の頭自然文化園への生活科見学 ○タブレットで撮影させるなど、写真を使った記録・まとめをさせる。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○話し合いやグループ活動を取り入れ、児童自身が活動内容を考えるようにする。 ○振り返りを全体で確認し、一人一人の学びをみんなで共有できるようにする。 ○さまざまな人と関わる活動を積極的に行う。 (例) 1年生との学校探検、おもちゃづくり、野菜の栽培活動、町探検、自己の成長を振り返る活動	【知識・技能を定着させるために】 ○家庭や地域と連携して学習を進める。 ○観察や体験活動を多く取り入れたり、教科書のデジタルコンテンツを活用したりして、実感をもって知識や技能を習得できるようにする。 ○家庭や地域との連携した学習活動を今まで以上に取り入れたり、一人1台端末を活用して学習を充実させたりすることで、児童に知識・技能を定着させる。 (例) 野菜の栽培活動、町探検、生き物との交流、自己の成長を振り返る活動。

(6) 音楽科

音楽科における指導の重点
○基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。 ○一人1台端末を活用することで、個に応じた指導を充実させる。

現状分析
教科指導上の課題
○児童一人ひとりが自分の思いや考えをもち、それを表現できるような指導をする必要がある。 ○児童相互の関わり合いの中で、児童の考えが広がり、深まるような指導をする必要がある。

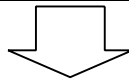


授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○音だけでなく、映像を提示することで、楽曲に対してのイメージをもたせる。 ○楽曲のイメージを動きで用いることで表現の工夫を行う。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○グループなど、少人数で発表する機会を増やし、友達の演奏の良さを感じる機会をつくる。	【知識・技能を定着させるために】 ○正しい運指の映像を見せることで、視覚的に理解しやすくする。 ○ペアで指使いを見合う時間を作ることで、正しい指使いを理解させる。 ○リズムにのって拍を取り、拍子の感覚を身に付けさせる。
3・4年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○各題材に1時間ほど、ガレージバンドのアプリを使い、実際に音を出して確かめる機会をつくる。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○グループなど、少人数で発表する機会を増やし、友達の演奏の良さを感じる機会をつくる。	【知識・技能を定着させるために】 ○個別に練習する時間を確保することで、個人の技能を高めていく。 ○Classroom で正しい運指や奏法の動画を提示し、家庭でも学習できるようにする。 ○フレーズやアーティキュレーションを感じ取って旋律を演奏できるようにする。
5・6年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○範奏を多く聴かせイメージを湧かせることで、実際の表現につなげていく。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○コラボノートEXを活用し、児童同士で考えを共有させることで、児童の考えを広げ、深めていく。	【知識・技能を定着させるために】 ○音色・速度・変化等を手がかりにして、楽曲の構造を理解して聴く能力がつくよう発問の仕方や聴かせ方を工夫する。 ○Classroom で正しい運指や奏法の動画を提示載、家庭でも学習できるようにする。 ○調や拍子、強弱、速さ、音の重なり等、音楽を特徴付ける要素に気付いて感じ取れるようにする。

(7) 図画工作科

図画工作科における指導の重点
○つくりだす喜びを味わわせる。 ○楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな感性を培う。

現状分析
教科指導上の課題
○児童一人ひとりが自分の思いや考えをもち、それを表現できるような指導をする必要がある。 ○児童相互の関わり合いの中で、児童の考えが広がり、深まるような指導をする必要がある。



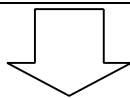
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○材料から発想できる造形遊びの機会をつくり、活動の中で表現や素材の面白さに気付く環境をつくる ○授業のねらい、題材、使用する道具などをより精選し、児童が活動のねらいを理解した上で活動できるようにする。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○同学年や異学年への作品発表や交流を通して客観的に作品を捉えて良さを感じる機会を作る。 ○作品鑑賞では一人1台端末を活用する。作品の写真と児童の紹介文が端末で共有できるようにする。家庭でも披露させ、児童の自己肯定感を高め、学びを深める。	【知識・技能を定着させるために】 ○基本的な用具を繰り返し使えるよう、振り返りの時間を授業ごとに行う。また、指導内容を整理して板書や拡大テレビに表示する。書画カメラを使って手本を見せ、さまざまな技法を紹介したり、練習したりする場を設定し、児童が安心して取り組めるようにする。 ○図工専科から助言を受けたり、授業補助に入ってもらったりすることで、児童に知識・技能が身に付くようにする。
3・4年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○材料から発想できる造形遊びの機会をつくり、自らが発想を広げて取り組む活動や授業環境をつくる。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○コラボノートEXやICTを活用して作品の経過を視覚的に共有する。 ○題材によって個人や複数人で表現や鑑賞を通して学び合う環境をつくる。 ○同学年や異学年への作品発表や交流を通して客観的に作品を捉えて良さを感じる機会を作る。	【知識・技能を定着させるために】 ○使用する用具を児童が選択できる環境を用意し、のびのびと表現し、発想が広がる空間を用意する。 ○技法や安全について視覚化しながら徹底して指導する。児童が自ら危機管理意識をもって用具を使えるようにする。 ○表現と鑑賞の活動を交互に行い、児童が影響し合いながらより良い表現になるようにする。

5・6年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○材料から発想できる造形遊びの機会をつくり、材料から感じたことや表したいことを深められる交流や授業環境をつくる。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○コラボノート EX や Classroom などの ICT を活用して作品の経過を視覚的に共有する。 ○題材によって個人や複数人で表現や鑑賞を通して学び合う環境をつくる。 ○同学年や異学年への作品発表や交流を通して客観的に作品を捉えて良さを感じる機会を作る。	【知識・技能を定着させるために】 ○使用する用具を児童が選択できる環境を用意し、児童がより良い表現や発想を深める空間を用意する。 ○技法や安全について視覚化しながら徹底して指導する。また児童が思い付いた表現方法を全体に共有してより良い表現や発想を増やしていく。児童が自ら危機管理意識をもって用具を使用する。 ○表現と鑑賞の活動を交互に行い、児童が影響し合いながらより良い表現になるようにする。
-------	---	---

(8) 家庭科

家庭科における指導の重点
○指導と評価の一体化を図る。 ○体験的な活動や調べ活動を充実させる。 ○ICT機器を積極的に活用する。

現状分析
教科指導上の課題
○児童一人ひとりが自分の思いや考えをもち、それを表現できるような指導をする必要がある。 ○児童相互の関わり合いの中で、児童の考えが広がり、深まるような指導をする必要がある。

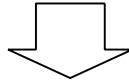


授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
5・6年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○自分の家庭生活や行動を見直して実際に改善する活動を取り入れる。 ○一人1台端末を活用して、自分のペースで課題に取り組めるようにする。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○調理や裁縫では、児童間での教え合う活動を充実させ、苦手な児童も技能を習得できるようにする。	【知識・技能を定着させるために】 ○動画教材を活用し、裁縫や調理の確認や復習ができるようにする。 ○長期休業等を利用し、家庭でできる学習を課題として提示する。

(9) 体育科

体育科における指導の重点	
○運動への意欲を高める。	○基礎的・基本的な技能を高める。
○指導事項を焦点化して明示する。	○ICT機器を積極的に活用する。

現状分析
教科指導上の課題
○児童一人ひとりが自分の思いや考えをもちながら運動に取り組めるような指導をする必要がある。 ○児童相互の関わり合いの中で、児童の考えが広がり、深まるような指導をする必要がある。



授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○より楽しい運動遊びにするための工夫を児童が考え、活動を作り上げる経験をさせる。 ○ねらいや児童の実態を基に、児童が思考する場面を意図的・計画的に設定する。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○友達と声を掛け合っている児童を称賛し、学級全体に広げるようにする。 ○誰とでも協力して学習できるように、グループやチームの組み合わせを配慮する。	【知識・技能を定着させるために】 ○ねらいにつながる動きをしている児童を称賛し、よい動きを学級全体に広げる。 ○取り組ませる運動を精選し、運動時間と認知学習の時間のバランスを意識する。
3・4年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○児童一人ひとりにめあてを決めさせて、それに向かって取り組ませる。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○ペアやグループでiPadを使って動画を撮影し、互いに見せ合い、よさやアドバイスを伝え合う時間を設ける。	【知識・技能を定着させるために】 ○よくできている児童の動きを手本として全体に見せ、動きのポイントを共有していく。 ○動画を活用し、全体でポイントを確認する。
5・6年生	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○単元の目標や、ポイントとなる動きを明示する。 ○つまづきに応じた個別の支援を充実させる。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○ペア学習やトリオ学習を行うとともに、見合うべき動きのポイントを明示する。 ○ペアやグループで、動きを動画撮影させ、自分の動きを確認し修正できるようにする。	【知識・技能を定着させるために】 ○活動時間を確保するために、「誰が」「何を」準備するのかを事前に示し、短時間で準備や片付けができるようにする。 ○動きのポイントを視覚的に提示したり合い言葉にしたりする。 ○自分で目標を立てさせ、意欲的に取り組めるようにする。

(10) 外国語活動・外国語科

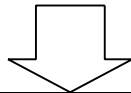
外国語活動・外国語科における指導の重点

- 自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ○ペアやグループでの言語活動を充実させる。
○ALT やイングリッシュキャラバンなど外部の人材を積極的に活用する。 ○ICT 機器を積極的に活用する。

現状分析

教科指導上の課題

- 児童一人ひとりが自分の思いや考えをもち、それを表現できるような指導をする必要がある。
○児童相互の関わり合いの中で、児童の考えが広がり、深まるような指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○様々な外国の文化や生活様式、習慣に触れる機会を多く設定する。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○ペアなどの少人数でのコミュニケーションの場を積極的に設定し、簡単な会話の中でコミュニケーション能力を高める。	【知識・技能を定着させるために】 ○デジタル教科書収録のチャンツ(歌)、アウトプットのできるゲームなどで反復練習をする。
外国語科	【自分の思いや考えをもたせるために】 ○グループ学習における個人の役割を明確にし、活躍の機会が特定の児童に偏らないようにする。 【関わり合いを通して学びを深めるために】 ○ペアなどの少人数によるコミュニケーションの場を積極的に設定し、考えを相手に伝える経験を多く積ませる。 ○プレゼンテーションソフトの同時編集機能を使い、協働的に準備・発表させる。	【知識・技能を定着させるために】 ○デジタル教科書収録のチャンツ(歌)などで反復練習をする。 ○学習の到達度に応じてスタンプを与えることで、意欲的に学習に取り組めるようにする。

(11) 特別の教科 道徳

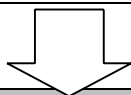
道徳科における指導の重点

- 全教育活動を通じた道徳教育を推進し、自他の大切さに気づき、他者を思いやる心を育む。
- 地域人材を積極的に招き、多くの人々とのつながりを築く。

現状分析

教科指導上の課題

- 児童一人ひとりが自分の思いや考えをもち、それを表現できるような指導をする必要がある。
- 児童相互の関わり合いの中で、児童の考えが広がり、深まるような指導をする必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

【自分の思いや考えをもたせるために】

- 教材文の中心人物の心情に十分共感させ、「自分だったらどうするか」と考えさせる。
- 「AとBどちらか」と選択させたり、「もし~だったら」と仮定したりして、自分の考えをもちやすくする。
- 学習のふりかえりの時間を十分確保し、自分の生活をしっかり見つめ直せるようにする。

【関わり合いを通して学びを深めるために】

- ICTを活用して、一人ひとりの意見を見える化し、共有できるようにする。
- 多様な考えを受容し、認め合うことの大切さを、繰り返し指導する。